

海の一旬

名句鑑賞

春の海ひねもすのたりのたりかな

与謝 蕪村



「ひねもす」は「一日中」という意味です。荒々しい冬の海が一変して、おだやかでゆったりと波打っている春の海をながめている作者の心もまた、きびしい時をのりこえてゆったりとした状態にあるのでしょうか。季語は「春の海」で、春の句です。

愛されずして沖遠く泳ぐなり

藤田 湘子

作者は、だれに愛されていないと感じたのでしょうか。親でしょうか、友人でしょうか。それとも……。そのつらさをふり切るために、沖へ沖へと泳いで行きます。季語は「泳ぐ」で、夏の句です。

どの灯とも睦みて秋の岬かな

太田千代子

「睦む」は仲良くするという意味です。夏の浜辺とはちがって、秋の浜辺はひっそりとして、さびしいものです。ですから、秋の岬は、わずかにともる秋の灯とも仲むつまじくしているのです。季語は「秋の岬」で、秋の句です。

木がらしや目刺にのこる海の色

芥川龍之介

「木がらし」は初冬に吹く強い北西寄りの冷たい季節風です。その木がらしに吹きさらされながらも、目刺には、生きて泳いでいた時の海の青さが残っているという意味です。それが雄雄しく見えるか、衰しく見えるかは、読者にまかされています。季語は「木がらし」で、冬の句です。

季題・季語

「季題」の「季」は、季節、「題」は主題という意味です。俳句には、愛とか死とか、日常のさまざまなことが詠みこまれますが、中心となるのは四季おりおりの風物です。四季の風物でなく、作者の思いが中心であっても、

万緑の中や吾子の齒生え初むる

中村草田男

のように、子どもの成長を喜ぶ親の思いが、「万緑」という風物と結びつけられて詠まれることが多いのです。

「季語」は、どこかの權威ある委員会などによって決定されるものではありません。季節の風物や、その風物に託された思い（日本人の美意識）が、長い年月をかけて一語に結晶されたものです。したがって、「季語」は単に句の一部というものではなくて、句の中心、あるいは句の出発点というべき大事なもののなのです。

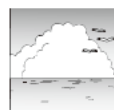
子どもの俳句から

春

春の海音にひかれてうふふふ

小学生
稲垣

有貴



何事もなかったような春の海

中学生
西山

早苗

夏

潮風にすがしさのあり船の上

小学生
井戸

美和

夏の海パレットの中から飛び出した

中学生
鳥居

裕紀

鑑賞のポイント

☆坪内稔典の句に、「三月の甘納豆のうふふふ」というのがあります。どちらも「うふふふふ」という擬声語が上中の句とよく響き合っています。どのように響き合っているのでしょうか。季語は「春の海」です。

☆「何事もなかったような」おだやかな「春の海」。では、春の前はどんな事があったのでしょうか。

☆潮風というのは、涼しそうに思えますが、実際はねっとりとした暖かいものです。ではそれが涼しく感じるのとはどんな時でしょう。「潮風」には夏の季節の感じがあります。

☆パレットのなかから何が飛び出したのでしょうか。パレットの中から飛び出した何かが、夏の海の何かを表現しているのです。季語は「夏の海」です。

秋

流れ星海に届いて砂となり

中学生

富里 孔太

冬

ふゆのうみコチコチだよねさかなつり

小学生

恩地 真彦

冬の海君しかいないきれいだよ

中学生

加藤 昌子

雑

いせえびはけっこんしきであいましょう

小学生

大槻 兼資

鑑賞のポイント

☆流れ星が砂になった。なかなかロマンチックな発想ですが、そんなふうに連想する「私」は、今、どんな生活をしているのでしょうか。季語は「流れ星」です。

☆なるほど、冬の海は、春の海とは違って表面がコチコチに固い感じですね。そんな冬の海で、だれと、どんな魚をつっているのでしょうか。季語は「ふゆのうみ」です。

☆「冬の海」が、「春の海」あるいは「夏の海」、「秋の海」だどのように印象が変わるでしょうか。季語は「冬の海」。

☆伊勢海老は、形もいいし、味もいいのですが、何せ高価でめったに食べられません。作者はだれかの結婚式の時、食べたことがあるのでしょうか。「伊勢海老」は新年の季語でもあります。

創作（海の句を作ってみよう）

○「海」といわれたら、どんな海を思いますか。また、印象に残っていること、思い出など、いろいろ書き出してみましよう。

○海に關係する季語を集めてみましょう。

○海の句を作ってみましょう。

[illegible][illegible][illegible]